

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

(令和4年12月12日午前10時50分)

●議長(佐藤武雄) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告の7、森山木の実議員。

1、町長として信濃町のビジョンをどう描いていますか

議席番号8番、森山木の実議員。

◆8番(森山木の実) 議席番号8番、森山木の実です。質問に先立ちまして、鈴木町長、ご就任おめでとうございます。議会と行政が協力して、明るい話題が提供できる良い町にしましょう、というご意見に賛成しております。私は新町長に、ああした方がいい、こうの方がいいとレクチャーするつもりではなく、普通に今までと変わらず質問いたしますので、よろしく願いいたします。その前に一言、議会と行政の関係なんですが、私が議員になりたての頃、県の議長会というところで研修がありまして、当時の前総務省の片山善博さんの講演を聞きました。その時にどんな話かといいますと、議会と行政は、車の両輪と言われる。どちらかがもう一方にすり寄ってしまうと、幅がどんどん狭くなって車は倒れてしまう。逆に離れすぎてもうまく走らない。いつも適度な距離を保つことが、町の運営をうまく活かせるものであると、そういうものです。そういう講演を聞いてきました。また、議会は行政のチェック機関です。予算が適正に使われているとか、事業が住民のために行われているかなどをチェックする機能があります。車の両輪が適度な距離で進むよう議会も努力しますので、よろしく願いいたします。では、質問に入ります。さて鈴木町長は、町長として町のビジョン、このビジョンというのは、幸福な未来図と言ってもいいと思いますが、幸福な未来図をどう描いているか3点ほどお聞きします。信濃町の農業について、子育て支援について、職員が能力を発揮できる職場について、この3点です。まず、信濃町の基幹産業の一つである農業についてお聞きします。私は、農業というのは門外漢ですので、消費者として質問をいたします。まず、お聞きしたいことは、信濃町の姿ですね。特に農業について、農業は10年後にはどうなっていたらいいと思われるのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただいまの森山議員からのご質問について、お答えをしたいと思います。変化の激しい最近の社会経済情勢の中で、10年後を正確に想像するということは、容易ではないところでありますが、こうあってほしいと願う姿を申し上げさせていただければと思います。先輩から引き継ぎました、広々といたします農地がきちんと管理されていて、耕作がなされていない荒地も見当たらない、人々が笑顔であいさつを交わしながら農作業に励んでいる。作物の栽培に不可欠な農業用水につきましても、ため池

や水路が関係者の皆さんの手厚い管理の下で、必要な水量が確保されていて常に流れている。また、平坦な農地が広がっている信濃町では米を中心とした土地利用型農業が行われておりますが、食料自給率向上を目指す国の方針の下で、米から小麦、そば、トウモロコシのほか野菜への転換も進んでいる、そして、おいしいご飯、新鮮な野菜サラダ、温かい煮物などが食卓を飾っている、そのような姿を期待したいと考えております。そうは言っても、現実の問題といたしましては、農家の高齢化、農家数の減少といった傾向には歯止めがかかっておりません。そしてまた、若い世代の新しい農業者も増えない、そういう状況にありますので、どのようにこの農業の担い手、あるいは作業の人出を確保していくのか、その辺りが大きな課題になっております。大変にむずかしい問題かとは思いますが、行政はもとより、JA、関係機関の協力を得ながら、対策を講じていかなければならないと感じております。国、県でもいろいろな施策を打っておりますので、対策の具体的な細かな内容につきましては、産業観光課長の方から説明させていただきます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 10年後の農業を取り巻く環境ということで、現実問題として厳しい状況が予想されております。現在の農業従事者の平均年齢が2020年農業センサスで、町内68歳を越すような状況でございます。先ほど町長が述べられたように、若年層の新規就農者等、進まないというような現状もございます。国の統計等でも農業従事者数が減っているというような状況がございまして、1995年の256万人から今、従事者数が136万人へと半減しているというようなことでございます。生産労働人口で2050年には推計値で7割というような予想もされているようなところで、担い手確保というのが重大な課題かなと感じているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 町長のビジョンを聞いていたら、明るくなったんですけども、今聞いたら暗くなってきました。これでは、食料の自給率を上げろなんていうのが、かなり大変なことだなと思いました。困っちゃいますね。本当に町の農業は酪農も含めましてかなり疲弊していると、そういうように思います。特に酪農の危機については、新型コロナの拡大とかウクライナ進攻問題による物流への影響もあり、大変なことになっていると聞いております。私がバターを6個位買ったぐらいでは、もう焼け石に水どころか全然何の役にも立たないんだなと思いつつも、何とか頑張って買おうと思って買っているのですが。また、飼料や燃料の高騰で、生乳1キロ当たりの生産コストが25円以上上昇していると聞いています。少なくとも今度は、販売価格は15円の値上げでないと、酪農家はやっていけない。でも価格交渉の結果は10円しか上がらなかった、そういう悲鳴も聞こえてきます。この件については、いろいろ資料も読みましたが、NHKオンラインが一番わかりやすかったんですけども、ここで紹介するのも時間がかかるので、

とにかく酪農に関して、倒産の連鎖が起きそうな事態にまで陥っているそうです。先ほどのやはり、農業の疲弊の問題もあります。また、去年信越病院の待合室にいたときに、数人の高齢の方から、お米の価格が安すぎる、作れば作るほど赤字になる、もう辞めたいと思っていると聞きました。生産者にすれば、自分の作ったものが適正に評価されないということですから、意欲がそがれるのは当然のことだと思います。何とか生産者が誇りをもって農業、酪農に携われるよう、行政はどんな策が打てるとお思いでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 行政が、どういう策を打てるかというご質問であります。その前段で、私の農業に対して考えていることを、少し説明させていただきたいかと思えます。将来の農業を考えると、二つの方向性があるのではないかと考えております。まずは、先ほど森山議員もご指摘のように、国民の食糧をどうやって確保していくのかという大きなテーマでありまして、食料の質、量、そしてまた価格を含めた供給体制を維持、強化していく、そういう考え方があろうかと思えます。品質の高いおいしい農産物を1年を通して安定的に供給されるためには、ある程度のスケールメリットが求められると思えますので、大規模農家や集落営農への農地の集積、農作業の効率化、そしてまた、経済効率の優れた経営へと移行していくことが不可欠かと考えております。また、農作業の機械化、省力化、それから農産物の品質向上を図るためには、水田、畑、それぞれ大区画化、広くして機械が運行しやすいような環境を整えるであるとか、あるいは、暗渠排水を施して水田であっても畑として利用できるような条件を整備する、そのようなことが大切なんではないかと思えます。それは国民の食糧を確保するという観点での方向性だと思います。もう一方では、自家用として米や野菜を栽培されている農家の方々、あるいは量としてはそれほど多くはないけれども、道の駅などに出荷して観光客の皆さんに喜ばれている、そういった農家の皆さんも大勢おられます。そういう農家の方々には、農地を含めました地域社会を守って頂いていると私は考えておりまして、引き続きそんなに規模は大きなくても農地を荒らさない、地域社会を守るといった役割を引き続き担っていただきたいと考えております。そういった農業の在り方が二つあるなど考えています。いずれにしても、佐藤課長からも話がありましたように、大変むずかしい状況ではありますが、この異なる二つの方向性に対応した行政の在り方というものが求められていると思えますので、まずは国、県が打ち出す最新の制度や、事業をきちんと把握した上で、それを分かりやすい形で整理して状況提供に努めていく、そしてまた農家からの問い合わせや相談に、きちんと乗っていくということが大切なんではないかと思えます。いずれにしても、高齢化、農家数の減少、新しい方々がなかなか参入していただけないということでもありますけれども、意欲ある方々に農業が魅力のある産業であると、可能性を秘めた産業であるということをお伝えして、なんとかみんなで一緒に前へ進んでいければなど期待しているところであります。そのような中で、私は今、本当にアイディアの段階ですけれども考えておりますのは、信濃町、いろいろな観光施設に恵まれておりますので、そういった条件を生かしたプログラムを開発できないかな

ということで、ひとつ例えば米に例をとりますと、田植えや稲刈りといった比較的単純な、熟練を必要としない作業に、都市住民の皆さんに手伝いに来てもらうというようなプランを提供したらどうかと。そしてまた、お手伝いに来ていただいた返礼は、お金じゃなくて農産物を返礼品としてプレゼントするというようなことが考えられないかなと、そういった都市部の方々に応援団になっていただいて、農作業だけじゃなくて、例えば、1日目は農作業、2日目は森林セラピーや、野尻湖でサップをやってもらう、3日目はもう1回もろこしの収穫をやってもらうとか、そういうような幅広い選択肢を用意しておいてそれに参加していただく、そんなようなプログラムが開発できないかなと、そういうことを通じて都市住民の方々に、農業の現状を知っていただき、そしてまたそういう行動を通じて、信濃町の農産物の消費が拡大していくというようなことになればうれしいなと考えております。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 一度でも体験すると、こんなに楽しいことはないと思うかもしれない。私などは、やはり農業に誇りを持つということがすごく大事なことなんだろうなと思います。自分はこんなに大切なことをやっているんだという、そのところをもっと発信していけたらいいなと思うわけです。とにかく今踏ん張ってもらいたいと、酪農にしても農業にしても、今踏ん張ってもらうために、行政としても私たちとしても応援する気持ちを伝えていかなきゃいけないなと思っています。それとまた、新規就農を増やすという話なんですけど、私は特色を出していかなければいいかなと思っていたんです。例えば有機農業に力を入れることで、新規就農を目指す若い人が増えている、そういう自治体があります。今度、視察に行くんですけども、若い人にとって農業はこれからの産業と言ってもいいと思うんですよ。SNSなどではずいぶんそういう声が出ていますので、何かちょっとやはり時代が移りつつあるかなと、変わりつつあるかなと。ちょっと、ほんのちょっと希望が見えてきたかなという感じもしないわけでもない、基本暗いんですけどね。信濃町もやり方によっては、農業の担い手を増やせるんじゃないかと思っています。先ほどそういう町長のお考えをお聞きしたので、それを進めていただきたいと思っています。何とかここでみんなで踏ん張ろうと、国もやはり有機農業の方にちょっと舵を切りつつありますので、良い後押しになると思います。そのところをちょっと加味して、計画を進めていければなと思います。次に、子育て支援についてお聞きします。お子さんが生まれてから、成人するまで20年という月日が必要ですよ、これは長いんです。この間、子育てをしながら生活のため、また自己実現のために仕事を続ける人もいます。そういう方たちが、安心して仕事を続けられるよう保育園や児童クラブがあるわけです。でも2年前ですか、今回もそういう事態が起きているんですが、2年前に保育士さん不足で、未満児のお子さんが預かってもらえないという事態が起きました。そして、今年も同じことが起きています。少子化や移住、定住について同僚議員からも質問がありましたが、もし移住、定住がうまくいってこの町に住みたいと希望する人がいても、保育士さん不足でお子さんを保育園に預けられず、おまけに住宅も見つからなければ

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

ば、信濃町は住む所として選ばれないかもしれません。特に保育士さん不足は深刻です。このことについて町長、お考えがあると思いますが、どうお考えでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 保育士さんが不足しているという現状について、どう考えるかというところでございますが、保育士だけでなく福祉に携わる方々の人材が大変不足しているのは、何も信濃町に限ったことではないということでもあります。そういう中で、長野県では社会福祉協議会と連携して、人材を確保するというような取り組みを進めているようではありますが、なかなかニーズに対応できる状態にまでは達していないとお聞きしています。私も教育委員会の皆さんと一緒に人材確保に努めてまいりますが、人材が集まらないというような要素には、先ほど森山議員もおっしゃられたような住環境が整備できていないとか、いろいろな要素がからまっているかと思っておりますので、その辺りの細部については、佐藤教育長の方から説明をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） お答えします。保育園への入園者数は当町の場合、3歳以上児については、出生数が減るのに比例して減少しています。しかし3歳未満児については、先ほど議員のご指摘の中にもありましたが、保護者の就労環境の変化に伴ってニーズは年々増加している状況です。国の基準で未満児保育の場合、保育士が一人で保育できる園児数は、乳児で3名、1・2歳児で6名ですので、3歳児の20名、4・5歳児の30名という基準と比較すると、未満児保育には大変多くの保育士が必要となります。教育委員会では、来年度の保育園の運営に当たって、現在通園している子どもさんたち、在園児に入園継続確認を行い、また新たに入園を希望される児童数を調査したところ、結果的には予想を超える、特に未満児保育へのニーズがあったということから、11月議会で職員募集にかかる費用を認めていただいて、現在保育士や給食調理員の募集をしているところです。考える、あらゆる方法を通じて行っているところですが、今町長の答弁にもありましたように、県の社会福祉協議会に要請したり、あるいは人材派遣会社に話をし、あるいはハローワークにも申し込み、個人的なネットワークも利用して、どこかに保育士さんの資格のある方がおいでになると聞けば、電話するなり何なり。つい2、3日前も私、ある筋からそういう方がおいでになるという話を聞いて、ご意向を伺ったりしているところですが、率直に申し上げてなかなかむずかしい。保育士資格はある人はきっと大勢いらっしゃるんでしょうけども、保育士として活動しようという方は、率直に申し上げてもう底をついている、ちょっと不用意な発言かもしれませんが、感触としてはそれに近いようなものを感じているところですが、まだこれからも継続してまいりたいと考えているところです。なお、当町の保育園をめぐる課題は、人材確保の困難さの他にも、建物の老朽化、あるいは未満児に対応した保育スペースが狭い、未満児

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

保育のニーズは高まるけれどもそのスペースが不足している、にもかかわらず、全体として、児童数は減っていくという状況があり非常にむずかしいんですが、総合的に対策を講じ、保育の量という言い方が適切かどうか分かりませんが、保育の量と共に昨今ここしばらくの間、ずいぶん保育の質と言いますか、他県のさまざまな悲惨な事例が報じられる中、保育の質の向上ということも当然同時に目指さなければならないということで、町民の皆さんのご理解を得ながら対策を講じていかなければならないと思っていますところでは。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 今、教育長がおっしゃらなかった中に、2年前におっしゃっていた4園のうち、2園を休園にすると、そういうことを今は考えておられますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） 現時点で4園を別の体制にしようということを考えているわけではなく、4園を維持するために最善を尽くしているということです。2年前に、2園を閉じるというようなことを今、議員おっしゃいましたけれども、あの時、私も教育委員会としましては、4園維持のためにベストを尽くすが、最悪開園できなかった場合に、第2希望、第3希望の保育園をお聞きするというふうなことで皆さんにお尋ねしたと認識しています。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 先ほど、お話の中にあつた潜在的な有資格者、探しておられたということなんですが、例えばせつかく手を挙げてくれたけれども条件が折り合わなくてダメだったとか、そういう例はありましたか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） 私の知る限り、条件というのは、例えば待遇というようなことですよね。そういうことでお断りになったというケースは、私は直接は承知していません。例えば、一旦ご退職になった方が、もう疲れたというか、もう結構だというふうな形でお答えになる方はいらっしゃったように思いますけれども。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 例えば、手を挙げてくれた人がいたとします。その方がフルタイムはちょっと無理なんだけれども、パートタイムだったらどうかとか。例えば、お子さん

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

が2人以上いた場合、その方のお子さんの園が分かれてしまうと、そういうことも考えられるんですけど、もしそういうことがあった場合、せっかく手を挙げてくれた方に対しての何か優遇策とか、パートでもいいよとか、園は兄弟は同じ園に来てもらえるよとか、そういう優遇策などは考えたことはおありですか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） お二人お子さんがいた時に、一つの園でというのは、保育士さんのお子さんという意味ですね。そういうことがもしあれば、それは一か所でお預かりできるようにしていると思いますが、具体的にそのケースがあったかどうか、ちょっと私、その部分は承知していません。それから勤務形態のフルタイムか短時間かということに関しては、ご相談に応じてやっていただければお願いしたいということでお話はしているところです。

●議長（佐藤武雄） 外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子） 今ほど、教育長からお答えをさせていただきましたので、一部補足させていただきたいと思います。勤務条件につきましては、お金のことは決まっていますのでなかなかむずかしいところがあるんですが、働く時間については、今もやはりできるだけ働いていただきたいのですが、むずかしいということで、パートタイムという言葉は的確ではありませんが、そういった働き方でお願いしている保育士さんもいらっしゃいます。一般的に今現在、保育園にあがっている、ご兄弟であがっている方については、基本やはり親御さんの負担が大きくなりますので、一つの園でというふうには、元々そういった配慮という言葉は適切でないかもしれませんが、負担がなくなるような形で、園の配置をさせていただいております。唯一、ゼロ歳児については、どうしても2箇所というふうに限られておりますので、もしかしたらそういうケース、ゼロ歳児の方はあったかもしれませんが、1歳以上の方については、基本同じ園に通っていただいていると思いますので、事例としても今のところ聞いたことはないということでお答えをさせていただきます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） それで結局、応募した方はいらっしゃらなかったということでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） 今年の募集ですよ。手を挙げていただいたと言いますか、現在ご相談しているものはあります、複数ですね。

令和4年第420回信濃町議会定例会12月会議 会議録(3日目)

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 複数いらっしゃるということは、もしかしたら、今回の保育士不足は解消するかもしれないと思っていいのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) そこまで今の時点で、万全だとは申し上げられない。お話の中には勤務時間等もありますので、まだ現時点で完璧な回答にはちょっと至らないというところでは。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) やっぱりここに住みたいと、だけど保育園に通わせられないんじゃない、ちょっと無理だなと思う人がいなくなるように、なんとか今応募してくれた方も大事にして、なんとか働いていただけるようお願いしたいと思います。毎年これやっていると大変なんですけど、例えば前回2年前に提案してみたんですが、企業主導型保育所。これデメリットとメリットあるんで、ちょっといろいろ考えなきゃいけないと思うんですが、企業主導型もありますし、混合保育ということも、もしかしたら考えられるのかなど。いろいろな形態はあると思うんですが、そこに関しての調査、または将来的な目標として進められるのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) では、私の方からお答えさせていただきます。ひとつは一点目、企業主導型の保育所ということでございますが、そちらについては正直申し上げて、今のところ特に研究をしているという状況ではございません。元々信濃町、ご存じのように町立の保育園しかございませんので、教育委員会としても、そういったいわゆる民間施設の保育園、あるいはそういった幼稚園も含めて、イメージがないということが大きいところでございますが、今後必要であれば研究もしてまいりますし、場合によっては、そういったお問い合わせがあれば、丁寧に対応させていただきたいと考えております。もう一点、混合保育、一般的には異年齢のお子さんが一つのクラスで保育を受けるというところでございますが、それについては、現在も一部小さい園では実施をしております。今回、来年度当初のクラス編成については、一部その拡大もやむを得ないかなという中で、必要、ちょっと誤解もありますが、必要最低限の保母さんの確保をしなければなりませんので、そういったことも含めて今現在、保育士の確保に努めているところでございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 企業主導型保育所というのは、その企業に努める保護者のためのものなのですが、地域のお子さんも受け入れられるんですよ。また、いくつかの企業が協力して、一つの企業主導型保育園をつくるということも考えられるわけです。ただデメリットもあります。狭いとか人数少ないとかあるんですが、そこちょっと調査をしてみたらどうかと提案いたします。それと、さっきのどうしてもしょうがなければ、2園をなんとか休んで、残りの2園でやっていくということも考えられるかなという答弁でしたけれども、やはり住民の、休園する保育園を選ぶのにただ人数だけで選ぶのではなく、その地域性。例えば、野尻湖が好きだから野尻に住みたくて来たんだよ、という人たちは、いくら野尻の保育園が人数少なくても休園にされちゃったらちょっと困ると思うんですよ。そういうこともやはり地域の住民と話し合いながら説明をして、それから理解を得るようにして、最悪の場合のあれで決めていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) 実は、今年この事態が予測されたものですから、11月の15日と17日に保護者の方々にお知らせをして説明会をもちました。保育士が不足している、最善を尽くすが、最悪の場合、4園体制の維持が困難かもしれないという趣旨の説明をいたしました。その際に、お集まりになった保護者の方から、具体的に最悪の場合、どこを休園するのかというご質問がありましたし、休園する園を決めるにあたっては、単に人数だけではなくて総合的に判断してほしいというふうなご要望と言いますか、ご意見はお聞きしています。それを避けようと、今努力している訳ですが、最悪そういう事態になったときに、当然そこに仮にA園を休園するということになれば、そこに通っている、通うことを予定していたお子さんたちを他に振り分けると言いましょうか、ちょっと失礼な言い方ですけども、そういうことになりますので、その可能性、そういった技術的なむずかしさみたいなものも当然あるとは承知していますので、それらをも考慮しつつ、当然決定すれば具体的にそのA園をご希望されている方々へは、きちんと説明していかなければいけないと考えております。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) それは、一時的なものとして理解していいのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) はい。私どもが考えておるのは、あくまでも最悪の場合に休園するというところで、長期的には4園体制そのものがむずかしくなるかもしれませんけれども、それはきちんと段階を踏んでと言いましょうか、手続きを踏んでと言いましょうか、それで統合というふうなことに至るのであって、今回、我々が直面しているのは、本当

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

に緊急避難的な、その保育を希望されている方々の希望を実現するためのやむを得ない措置というふうになるかなと考えているところです。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） そういうことだと理解を得られやすいとは思いますが。保育園の問題、いろいろ聞いたり調べたりしていると。保育所の問題は移住定住に関わってくるし、少子化問題にも関わってくるし、税金にも、仕事にも、いろいろ考える核になっちゃっているなど、ものすごく大事な問題だと思うんですよ。だからこれは、本当に丁寧に住民にも説明をしていっていただきたいと、今みたいに緊急避難だと、それはかなり説得力がありますし、そういうことを丁寧に説明していっていただきたいと思います。地域の事情もありますからそんな簡単にはいかないと思いますけれども、どういう形でこれから先、保育事業を進めていくかも発信していただければありがたいと思います。3つ目にいきます。次は、職員が能力を発揮できる職場、つまり役場についてですね。なんだかここ数年、役場がシーンとしているな、元気がないな、暗いなという声をよく聞きました。私個人としては、職員が縮こまっていると、そういう表現をしたいと思います。例えば、北風と太陽の話みたいですが、北風の当たる中、コートの前をしっかりと閉じて、それも首だけ縮こませている感じ、というのは私の個人的な印象なんですけれども、それも外から見ただけのことで、内情はちょっとよくわかりませんが、外から見ただけの印象ではそういうものになっています。それでもこの頃、なんとなく日が当たっているかな、なんとなく、おはようございますと言えば、どこかからおはようございますが返ってきたな、今日ほど。今日返ってきたんですよ。うれしかったですね。だから、そういう声も出てきたらいいなと思います。例えばコロナの最初の頃、10万円の支給があったとき、信濃町は他の自治体よりもずっと早く支給することができたんです。これは職員のアイデアでできたことだと、当時の町長が、誇らしげにおっしゃっていました。そういうふうに、職員の方がこの町のためにとどんどん意見を出して、それが上に上がっていったり取り上げられる、そして良い事業になる。その意見やアイデアが上に上がるまでのルールがあるんでしょうけれども、実は活きているのかどうか、ちゃんと職員のアイデアは上に上がっていているのかどうか、そのところをまずちょっとお聞きしたいです。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 森山議員のご質問の最後のところはまた、担当課長の方から説明させていただきますが、活気のある役場を作るためにどうしたらいいかということについて、私の思っていることを少し述べさせていただきたいと思います。活気を感じられる職場というものを想像したときには、まず窓口では笑顔ではきはきとした会話がテンポ良く進んで、そして事務手続きが短時間のうちに済ませられるということの他に、あるいは事業制度などの問い合わせについても、わかりやすく丁寧に対応をする、そのよう

なことが評価を分けるポイントになるのではないかと思います。ということですので、まずは、普段から職場内の情報共有に努めていただいて、組織としての課題や目標を明確化することなどを通じまして、結果的にスピード感のある対応が可能になるのではないかと思います。また、個人やグループによります政策発表会などを企画いたしまして、実践的なテーマについて現状を正確に把握した上で、課題の抽出そして将来展望までの一連のプロセスを研究するというようなことを、研修を通じまして職員間のつながりをもっと強化されるというような効果があるのではないかと考えております。職員の研修等につきましては、これまでの経過もありますので、松木総務課長から説明をさせていただきたいかと思います。よろしくお願ひします。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 研修関係の話ですので、私の方からお答えをさせていただきます。先ほど、提案がちゃんと上がっているのかということもありましたので、それも含めてご回答をさせていただければと思います。本年度、今DXを進めております。そのうち行政のDXという部分もありますので、それに伴った研修を10年未満の職員を対象に、今年3回ほど行わせていただきました。まず3回ほどやったわけですが、実際に個人でそういう研修についてのテーマを決めていただいて、その解決策をグループで共有をしていき、3回目にプレゼンテーションを行わせていただいたところでございます。そのプレゼンテーションに当たっては、証拠に基づく政策立案、EBPMと言いますが、その根拠となるデータ収集から理論的に課題解決ができるよう、いろいろな意見やアイデアを出していただいたところでありまして。参加された職員からは、普段一緒に仕事をする職員じゃない職員とチームを組みますので大変良かったという意見もいただいておりますし、証拠に基づく理論的な考え、これなかなか難しいということも言われておりました。こういう研修、10年未満でやったんですが、今後は係長・主幹級にも広げていく予定で今、進めております。この研修の発表を理事者にも行う予定でおりました。前町長の時にもやる予定で、ちょっと町長が体調を崩されてしばらく来られなかったものですから、できなかったものです。それで新町長になられましたので、これから今、こういう議会の場に入りましたので、なかなかその設定の場ができなかったのですが、これをやる予定で今、日程を詰めている段階でございます。ですので、そういうことで、発表の場も理事者の方へも上がっていくということでございます。この他にも10年未満の職員に対する研修というのは、災害対応研修、これも10年未満の職員に行っています。あと法制執務、財務規則、契約事務、こういうのを10年未満の職員にできるだけ参加してもらうように勧めているところです。10年未満以外でも職員研修というのは本年度だけで全部で24回、92名ほど、全体ですけれども参加されておりますし、10年未満ですと8回、55人ほど出席していただいておりますので、こういうことで意識を高めてつなげていければと思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

◆8番(森山木の実) その政策立案発表会というのは良さそうですね。ぜひ聞きたいと思うんですがそれは無理かもしれないですが、まあしょうがないです。例えば、住民のためにやる事業のための立案なんかもするんでしょうか。今のは技術的なことだけだったかなと思うんですけども、住民のためにこういうことができるのではないかとか、何かそういう立案もできるんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 今回行政DXで3グループ、できたわけですが、1点目はその1つのグループずつでいきますと、書類の改善をして、管理改善をして、働きやすい職場にしようというのが1グループです。2グループ目は職員の減少に対して、どう対応していくのかという2グループ、3グループ目は町民向けの情報発信、これについて研究をして発表させていただきました。ですから役場の中だけの話ではなく、いろいろな方面に向けての研究をさせていただいたということです。以上です。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 自分たちが立案した施策が取り上げられて実現していくというのは、とても楽しいこと、ワクワクすることですし、活気づいていくと思います。昨今言われているのが、行政の民間委託ですね。例えばコンサル任せとか、地域活性化企業人任せとか、外から人を呼べばうまくいくのではないかと、意見を聞けばその人たちに相談してやっという。だけど私が思うのには、もちろんコンサルなどの専門家は大事です。だけどその基本に町としてのビジョンがなければ、ただただ流されていくだけだと思うんですね。外からの人なら何でも解決できるかという、私はそんなことはないと思うんですが、例えば、職員だって外から来た人もいますし、外に出た人もいますし、地元に住つといた人もいます。その人たちが協力しあって良い施策を立案していけば、とても職員の能力が発揮されていくのではないかと思います。さっきも言いましたけれども、そのワクワクすること、大変重要だと思うんですよ。ワクワクというただ気持ちの問題かなと思うんですけども、例えば、本当にビジョンがちゃんとあれば、新病院に院内売店がないなんて、そんなことは町民のためにならないとコンサルに強く言って、院内売店がない設計を蹴飛ばすぐらいの元気が出てきてくれればいいなとずっと思っていました。信濃町という実際のビジョン、これがやはりなんでも基本だと思うんです。そのビジョンがあれば、本当に今も、何度も言いますが、コンサルがどう言おうが、地域活性化企業人がどう言おうが、信濃町をこうしたいんだと、例えばさっきも言いました、院内売店がないと、患者がいきなり寒い場所に出て病状が悪化するようなことはさせないぞと、そういうことになれば、住民の安心、安全は確保、担保されると思うんです。住民を守りたいという職員の考え、行政としてのビジョンがあれば、これからも信濃町はワクワクしていけるんじゃないかと思います。おはようございますと言えば、今日は一人でしたが、二人ぐらいはおはようございますと返してくれるような明るい職場

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

になっていけばいいなと思います。職員が知恵を出して、いいアイデアを出して、多少の失敗は今後の糧として、活き活きと仕事をしていける職場になることを希望しまして、私の質問を終わりますが、何か言いたいですか。いいですか。では、質問を終わります。

- 議長（佐藤武雄） 以上で、森山木の実議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

(終了 午前11時41分)